

モノづくりで社会を、
文化を変えてゆく。
関大での知のつながり、
人とのつながりは
かけがえない宝。



株式会社ノエックス 代表取締役

山田祐輝さん

関西大学 工学部電子工学科 2010年卒

1985年生まれ 神戸市出身

兵庫県立兵庫工業高校卒

PC周辺機器メーカーのバッファロー株式会社で5年勤務後、現職。
妻と息子1人（4歳）の3人家族。

「休日は子供と公園でのびのび遊びます。つくばエリアには
東京ドーム級の広さの公園が10個くらいあるんですよ」

電機製品の設計から、社内で製造設備を作つて、量産まで。

モノづくりを独自技術でトータル支援するハードウェアベンチャー（株）ノエックス。社長の山田祐輝さんは、ソニー創業者の立志伝に魅せられた子供の頃以来、ブレることなく「技術でリアルに社会を変えたい」と思い続けて、関大卒業後5年で初志貫徹、メーカーを起業しました。「こうならいいな」を実際にカタチにしていくその突破力は、関大で培われたという山田さん。悠久の庭で描いた未来図と、今のこと、伺いました。

モノの力は、社会や文化になるんだ！

偉大な技術者から得た信念は、小学5年生から変わらない

すごく小さい時から電気製品好きで、物心つく頃には電機メーカーの名前を全部覚えてる変わった子でした。幼稚園くらいから「伝記」をいっぱい読みだします。エジソンとか。小学5年で「ウォークマンってすごい！」とソニー創業者の井深大さんに憧れました。パナソニックの松下幸之助や豊田自動織機の豊田佐吉、トヨタ自動車の豊田喜一郎のような「モノを作つて社会を、文化を変えた人」に感銘を受けて、自分も同じようなことがしたいと思い始めました。工業高校に進んでから「人を巻き込んで何かを変える」こと

がしてみたりました。それで「夢を持つこと」というタイトルで弁論大会に参加したら、市の大会で優勝してしまった。弁論部でもないのに（笑）

技術は大事だけど他の世界も知らないと偏るかな、と思って「高校生が社会について考えるサイト」というのも始めて、NHKから取材も受けましたね。

関大を選んだのも、総合大学で「他人の視野や考え」をもらおうと思ったからです。実際はそんなに他学部との関わりはなかったですが（笑）

ハードもソフトもクラウドもワンストップ提供 ふわっとした思いつきを、カタチにできるミニ工場

今、ODM（委託者のブランドで製品を設計・生産すること）という形態でメーカーをしています。

メーカーじゃない事業会社でも「こういうモノがあつたらよりよい世界になる」という思いで僕らを頼ってくれたら、量産製品としてアウトプットします。そのモノによって、よりよい社会や文化を作っていくみたい。

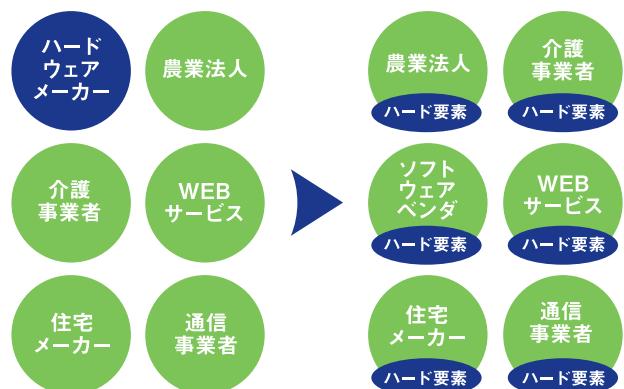
今までのモノづくりって、まずメーカーの人が何かを発想して、作るという流れでした。それが今、変わってきています。

例えばWEBサービスのアマゾンがAIスピーカーを作ったり、ハウスメーカーの積水ハイムが家庭内エネルギーのマネジメントシステムをNECと組んで作るとか。ハードウェアと無縁なところが発想して、売りだしています。ハードウェアを作ることでより高度なサービスが生まれる。モノで社会が変わり始めているんです。

うちの製品例でいうと「介護事業者が考えた、お年寄りの見守りセンサー」です。2時間ごとの巡回のはざまで何かが起きてもすぐに感知できて、データも取れて、認知症などの傾向がわかれれば、介護のやり方も変わるので、と施設の現場の方が発想して生まれた製品です。この介護施設がメーカーとして、他の介護施設にも販売されています。

作り方も変わります。今時はモノづくり=中国ですが、うちは内製にこだわります。これは僕の意思。開発者が生産すれば、不良時にどこが悪いかすぐわかる。あとモノづくりをして

ハードウェアの位置づけの変化



ハードを使ってより高度なサービス提供

いないと技術トレンドが大きく変わった時に作れなくなる。お金と人手が乏しいベンチャーの自分たちが使える、中国に頼らないモノづくり手段として、自動製造装置を作りました。コストは電気代だけ、人がいなくてもこのフル自動生産ラインで月産数千台作れます。このオートメーションで、国内生産の仕組みを実践していこうとしています。

うちの工場は大きい?いえ、机4つ分ぐらいで、商品の内製だけじゃなく、それを作る生産ラインも内製する、こんなベンチャーは多分他にはないでしょう。これを今後の日本の生産の「ひとつのカタチ」にしたいと思っています。



4畳あれば 「自社でモノづくり」

オフィスや店舗に置ける自動製造装置、
コンパクトファブライン。

小さなメーカー、新事業の夢を叶えます

設置面積が4畳ほどと省スペースながら、
部品の取出し、電気検査、FW書き込みから
組立てまで製造工程を一貫してこなす

「小さなオートメーション工場」。

小型の電気機器製造のほか、スーパーや店舗での
食品の詰込みなど幅広い自動化ニーズに対応する。

お問合せ 株式会社ノエックス
(茨城県つくば市) <http://noex-inc.co.jp>

いかに学んだか、いかに先人とリンクするか スタンダードの圧倒差でグローバルに押し勝つ

就活の話をしましょう。最終的に会社を選ぶ時、僕はまず起業したいことを伝えた上で、自分の提案がどれくらい通る社風か、そして創業者が存命な会社かを決め手にしました。

大学時代には大会社のトップと会えることってないから、一緒に働くと得ることが多いんじゃないかなと。この経験は財産になりましたね。創業者は豪快で、いちいち観点がすごい。俺はこうだ！という強い意志が学べました。

バッファローでは就活時から東京を希望しました。キャリアを始めるならいろんな情報が集まる東京でと思ったので。関大生は地元関西志向だそうですが、やりたい仕事や考え方人それぞれ、僕はいけないとは思いません。東京一極集中もどうかなと感じているし、地方創生の時代で、地方だからこそ出るアイデアもある。ただ起業を考えているなら、一度は首都圏を経験していくともいいとは思います。

スタートアップを視野に入れる人に、アドバイスは3つあります。まず、大学の勉強はちゃんとやったほうがいいということ。僕は3年留年しましたけど（笑）。就職したバッファローで感じましたが、工学部に関しては大学の授業で学んだことはかなり使えます。基礎的知識ってすごく重要。工学で特にそういうかもしれないけど、何事にもベースは今後ますます大事になってくると思う。あと、上の人とのつながりを持つこと。サークルでも何でもいい。せっかく大学に入ったなら基礎研究を含んだ知のつながり、心のつながり、それがあるといい。先輩からアドバイスを貰えることって、すごく重要なと思います。僕らはこれから、ポッと出の新興国みたいなところと勝負になっていく。そこと日本との違いは、先輩たちの蓄積、ベースがちゃんとあることかなと考えています。ポッと出のアイデアだけで勝負するとそれまでなんですが、日本の今までの蓄積を使って、かつ自分たちの新しいアイデアと一緒にできると、すごく強いと思う。そして、「普通の就職」だって素晴らしいということ。やたらとスタートアップがすすめられますが、日本の蓄積を生かすという意味では、普通に企業に入って技術を磨くことでも、立派に社会に貢献できます。普通の企業が存続してこそ、私たちベンチャーもモノが作れます。日本の社会には両方必要だと僕は思います。

山田さんのある1日

3:00 起床

- 普段より1~2時間早起き。
- 録りためた「カンブリア宮殿」「ガイアの夜明け」を楽しむ
- メール確認、今日のスケジューリング

6:00 妻子を起こし、朝食

- 焼き立てピザとコーヒー、前夜のおかず
- ※「みんなで作る」が大事！

7:50 都内勤務の妻を見送り後、出勤

- 愛車でゆったり。行き45分、帰り25分

9:00 始業

- リモート勤務スタッフとTV会議
- 来客
- 朝から東京へ向かうことも

12:00 昼食

- 普段はみんなで店に。今日はコンビニでサラダ、糖質抑えめのパン、トクホのお茶

13:00 午後ワーク

- 会議
- 取引先訪問
- 銀行と融資の相談

18:40 退社

19:30 息子を保育園にお迎え

20:00 夕食作り→食事

- 早く帰った方が担当。生協の料理キットが味方。

20:30 息子と入浴

21:00 就寝

- イクメン生活のおかげで睡眠はしっかり確保。



魅力をアップし人を集めた、喧嘩もした 楽しく社会を変えられる「工学」を知ってほしくて

在学中は工学会という生徒会のような組織と、電子通信工学研究会というサークルの2つで企画をやりました。人がまばらだった工場見学やセミナーに工夫をこらして、僕が手がけてからは参加数が7倍位に増え、6人だったサークルも100人以上にしました。この頃築いた100名以上の先輩後輩との人間関係は、僕の今の財産です。

学園祭ではサークルでの大きな「悠久の庭」を全部借り切ってステージを組んだり、凛風館の1F全部を使って子供機関車を走らせ「電池何本で動くかな?」イベントをしました。アンプやスピーカーやマイクも全部サークルで内製して、結構な活動費を稼いだものです。

ただ、学園祭中ずっと悠久の庭を使いたいなんていうと実行委員会と喧嘩団交です。でもこれくらいの規模でやらないと、工学部って目立たないでしょ? 学園祭って楽しむものだけど、

せっかく大学で工学やってるんだし、工学で実際に社会を変えられるんだよってことを小さい子に見せて、僕らの世界に入り口を作りました。『理科離れ』なんて言われてたから。あの頃どうやって人を集めめるか、魅力的に見せられるのか企画を繰り返した、あの生きたPDCAサイクルは重要だったなと思います。本当に、今につながっていますね。



「あなたにとって関西大学とは?」

ひとことで言うと「人生」かなあ。僕の中では今も「関大」は続いているような気がしています。学生の時もそうなんですが、卒業してからもずっと関西大学の先輩や後輩に助けられ

て、今こうして事業もやれているから…人生そのものと言えるかもしれない。うん、僕にとって関西大学は、「人生」です!

(撮影・取材:関西大学東京センターにて)



KUT OBOG Interviewについて

関大東京センターのご利用者で、首都圏でご活躍中のOBOGの方々に登場いただき、学生時代のエピソードから現在の活動・ビジョン等をご紹介する特集です。

◀ 関西大学東京センター公式マスコット、忍者の“ほなくん”。おもな任務は、館内やSNSなどで広報活動のお手伝いをすること。時には取材にも参加します。どうぞよろしく!



関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671
<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式Twitter



公式Facebook